

# 集中豪雨・台風

梅雨の終わり頃によく起こる集中豪雨は、狭い地域に突発的・集中的に雨が降るため、予想が極めて困難です。中小河川の氾濫や土砂崩れ、崖崩れなどによる被害が予想されるため、崖付近や造成地などでは気象情報に細心の注意を払う必要があります。一定の基準雨量を超えると避難勧告が発令され、テレビやラジオなどの報道機関から情報が流されます。气象台などから出される情報に常に注意し、すみやかに避難してください。この場合も、事前の準備と冷静な行動が被害を最小限に食い止めます。

## 【雨の強さと降り方】

一時間雨量 (mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る	息苦しい圧迫感がある恐怖を感じる
人への影響	地面の跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる		傘は全く役に立たない	
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなったり視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行中、ハイドロプレーニング現象が生じる	車の運転は危険	
災害の発生状況	この程度の雨でも長続時は注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ小規模の崖崩れが始まる	山崩れ・崖崩れがおきやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 都市では下水管から雨水があふれる	都市部では地下室や地下街に雨水が流れこむ場合がある マンホールから水が噴出する土石流が起こりやすい多くの災害が発生する	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

## 【風の強さと吹き方】

平均風速 (m/秒)	10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～30未満	30以上～35未満	35以上40未満	40以上
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風		
およその時速	～50km	～70km	～90km	～110km	～125km	～140km	140km～
速さの目安	一般道路の自動車		高速道路の自動車		特急電車		
人への影響	風に向かって歩きにくくなる 傘がさせない	風に向かって歩けない 転倒する人もでる 高所での作業はきわめて危険	何かにつかまっていなくて立ってられない 飛来物によって負傷のおそれがある		屋外での行動は極めて危険		
屋外・樹木の様子	樹木全体が揺れ始める 電線が揺れ始める	電線が鳴り始める 看板やトタン板が外れ始める	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める 看板が落下・飛散する 道路標識が傾く		多くの樹木が倒れる 電柱や街灯で倒れるものがある ブロック壁で倒壊するものがある		
走行中の車	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる	通常で速度で運転するのが困難になる		走行中のトラックが横転する		
建造物	樋(とい)が揺れ始める	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある 雨戸やシャッターが揺れる	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある 固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくられる 養生の不十分な仮設足場が崩落する	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある	住家で倒壊するものがある 鉄骨構造物で変形するものがある	

## 日頃の安全対策

- ラジオやテレビなどで気象情報にはくれぐれも注意を払う。
- 市・区役所や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオの用意しておく。
- 非常時の持ち出し品を準備しておく。
- 浸水に備えて家財道具は安全な場所におく。
- 危険な土地ではいつでも避難できる準備態勢をとっておく。
- 飲料水や食料を最低7日分確保しておく。
- 避難場所を事前に確認しておく。

**豪雨の時は地下室は危険です。  
浸水の危険があるときは早めに避難しましょう。**

- 地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます。
- 浸水すると電灯が消え、エレベータは使用できません。
- 地下室では外の様子が判りません。
- 水圧でドアは開きません。

